

part of sclerotium (hp<sub>3</sub>).

Pl. IX. Microphotographs of powdered Moutan Bark (牡丹皮).

mr: medullary ray containing starch grains.

Pl. X. Microphotographs of powdered Peach Kernel (桃仁).

ep: epidermis→of outer seed coat (ep<sub>1</sub>) or inner seed coat (ep<sub>2</sub>).

Pl. XI. Microphotographs of powdered Peony Root (芍薬).

○伊豆諸島産ミクラザサについて (井上賢治・谷本丈夫) Kenji INOUE & Takeo TANIMOTO: *Sasa kurilensis* var. *Jotanii* (var. nov.) from the Izu Islands (Tokyo), Japan

ミクラザサは中井猛之進により、常谷幸雄の伊豆諸島御蔵島からの採集品に基づいて命名されたものであるが、ラベルに記されたままで、有効には出版されなかった。1936年に中井は *Arundinaria mikurensis* (ミクラコザサ) を発表した際に、同島にはさらにササ属の一新種があると記しており、これがミクラザサにあたると考えられる。常谷(1935)は御蔵島の植物目録にミクラザサを *Sasa mikurensis* Nakai の学名とともに載げた。

ミクラザサはチシマザサ節 (Sect. *Macrochlamys*) に入り、稈が 1 m 以上に達し、上部でよく分枝し、数年間は枯れず、節は低く、稈鞘が節間の 1/2-2/3 以上包んでいる。稈、稈鞘、葉も若い時より無毛であることはチシマザサ (*Sasa kurilensis*) に一致する。しかし、チシマザサより葉が厚く、稈の基部が大きく湾曲しない。

御蔵島ではミクラザサは海拔 550 m 以上の尾根と御山の山頂に生育するが、一部の地域では海拔 300 m 付近まで下がっている。最近、谷本はミクラザサが御蔵島だけでなく、八丈島にも産することを知った。八丈島においては東山山頂より南西方向へ 30-60 m 下がった地域に生育している。

これらの特徴から、著者らはミクラザサをチシマザサの地方変種とする結論に達した。本州では主として日本海側に分布するチシマザサが伊豆諸島にも生育していることは、植物地理学的にも大変興味深い。

最後に、御指導いただいた東京大学総合研究資料館の大場秀章先生にお礼申し上げます。なお、本研究は農林水産省大型別枠研究バイオマス変換計画 (文献番号 BCP-85-II-2-1) の一環として行ったものである。

*Sasa kurilensis* (Rupr.) Makino et Shibata in Bot. Mag. Tokyo 15: 27 (1901)  
—S. Suzuki in Jap. Journ. Bot. 18(3): 297 (1964)—S. Suzuki, Index Jap. Bamb. 341 (1978).

var. **Jotanii** Ke. Inoue et Tanimoto, var. nov.

*Sasa mikurensis* Nakai in sched. in (Herb.) TI—Jotani in Kagaku-no-Nogyo 16(1): 39 (1935), nom. nud.

A typo differt foliis crassis, caulibus erectis non decumbentibus.

Specimens Examined: Tokyo. Isl. Mikura-jima, Oyama (Ke. Inoue Jun. 24, 1984 no. 77871—Holotype in Herbarium of Tokyo University of Agriculture (TUA), Isotype in TI; S. Hayama et al. no. 65383, TUA; Ke. Inoue no. 77869, TUA; Tanimoto no. 77875, no. 77877, TUA; Jotani 1934 s.n., TI); Isl. Hachijo-jima, Higashi-yama (Tanimoto no. 77389, TUA; Tanimoto Jan. 1983 s.n., TFA).

Nom. Jap. Mikura-zasa (Nakai ex Jotani).

Distr. Japan. Honshu. The Izu Islands (Tokyo), Isl. Mikura-jima and Hachijo-jima.

The epithet is dedicated to Dr. Yukio Jotani, Prof. Emeritus, Tokyo University of Agriculture, who first found this plant in Isl. Mikura-jima.

(東京農業大学 図書館標本部・農林水産省 林業試験場造林部植生研究室)

○高等植物分布資料 (115) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (115)

○ヤンバルツルハッカ *Leucas mollissima* Wall. var. *chinensis* Benth. 小笠原母島の乳房新道東南尾根 (海拔 410-430 m) で、1984年12月22日延島冬生氏が採集されたシソ科の1種の同定を依頼された。白色の花をつけた標本で、一見クルマバナに似ているが、全株に多細胞の白柔毛を密布し、花冠、ことに上唇の長白毛が著しい点と、萼に10脈、10歯を有する点がこれと異なる。調べたところ、ヤンバルツルハッカであることが分った。以下その主な特徴を記しておく。

茎は基部近くで分岐、匍伏し、長さ 30-50 cm で両面有毛。葉柄は 0.5-1.0 cm、葉身は卵形で長さ 2-3 cm、巾約 2 cm、鈍頭で広楔脚、各側に 3-5 対の微凸端に終る鈍鋸歯あり、側脈は各側 3-4 対で下面に尖出する。輪状の集散花序は 8-10 花からなり、苞は線形で長さ 2-3 mm、有毛、小梗は細く、3-4 mm で有毛。萼は筒状鐘形で長さ 7-8 mm、巾 3-4 mm、10脈10歯あり有毛。萼歯は狭三角形で鋭尖頭、長短 5 けづつ交互に並び、長さ 1.0-1.5 mm、花冠は白色で長さ約 1 cm。

本種はこれまでに日本 (トカラ列島の口之島以南)、台湾、南中国およびビルマに分布していることが報告されているが、小笠原では初めての報告である。

(東京都立大学理学部 牧野標本館 小林純子 Sumiko KOBAYASHI)